



TOPICS

7/30

共乾経営改善へ コンサル



覚書に署名する佐藤組合長㊦

J A全農と「共同乾燥施設補修改修提案に関する覚書」を取り交わしました。営農経済事業改革の一環で、組合員利用による共同乾燥施設を安定経営していくための提案を、J A全農から受けることが目的。J A全農は8月から、カントリーエレベーターとライスセンター合わせて14施設についてヒアリングで課題を抽出し、12月に結果と改善案を提案します。佐藤組合長は「J A全農の支援を受けながら根本的な部分の解決を図りたい。早急に経営の安定化と運営に取り組み」と話しました。

7/30

全容把握に努め早期対応



看板を設置する佐藤組合長㊦と阿部幸文常務

27、28日にかけて降り続いた大雨被害に対応するため、「7・28大雨農作物被害対策本部」を立ち上げました。29日午後5時現在の水田や畑への冠水被害面積は1005㍏に及び、今後の管理について、被害地域の組合員にチラシを配布した他、FMラジオで呼び掛けました。

7/29

課題など把握し方向示す



経営基盤強化に向け決意を述べる佐藤組合長

経営基盤強化に向け、第1次報告会を開きました。6月下旬からJ A常勤役員や担当部長、営農経済センター長らにヒアリングを実施し、経営と事業、営農関連施設の現状と課題を確認。J A役員が情報を共有し、第3次経営計画に基づきビジョンの実現を図ります。

7/31

販売金額過去最高上回る



培土について研修する部会員

令和2年度生産販売実績検討会を三研ソイル㈱（八幡平市）で開き、販売額が過去最高の5054万3530円（前年比103%）になったと報告しました。来年度の出荷に向け適期作業に努め、課題を共有し改善に取り組みます。研修会では培土について理解を深め、今後の栽培に生かします。

7/31

ふるさとの味で学生応援



特産品詰め合わせを紹介する勝部修市長

市内の親元を離れて暮らす県内外の学生に市内産農産物や加工品を贈る「うまいもん丸ごと贈って学生応援事業」の発表式を開きました。特産品詰め合わせには、一関地域で育つた米「金色の風」やJ Aのとまとジュースなど1万円分が入ります。新型コロナウイルスに伴う市独自支援策です。

一関市



8/6

生産者の苦勞肌で感じる

令和2年度職員農業研修を4日間花き農家で行いました。入組2年目の職員4人が2人ずつ分かれてそれぞれ2日間、小菊の収穫作業や箱詰め作業を体験しました。毎年、入組3年目まで現場で農業研修を実施しています。小菊生産者の藤野寿美さん(千厩)は「生産現場を知り農家が安心して生産できるようにサポート役として頑張ってほしい」と期待しました。JA千厩支店の伊藤アリサ職員は「農家の苦勞を知り少しでも役に立てるよう業務に生かしたい」と意欲を見せました。



収穫した小菊を運ぶ新人職員



8/1

JAMITに笑い声響く

JAMITハウジングギャラリーいちのせき



献立を考えながら詰め放題を楽しむ来場者

あおぞらMarcheを8月1、2の両日開きました。軽トラ市やかき氷と牛乳のプレゼンなど、住宅展示場を見学しながら楽しめるイベントを行いました。軽トラ市のトマトやピーマン、ナス、キュウリの詰め放題では、笑顔で袋いっぱい詰めていただきました。

8/1

共同栽培の野菜で食育を



種をまく女性部員

ニンジンの種まきとエダマメの草取りを部員13人で行いました。作業を分担しながら、畝づくりや種まきを手際よく進めました。生育状況を見ながら8月下旬にはニンジンの間引きを行います。ニンジンは女性部の統一作物で、共同で栽培し食農教育などに役立てます。



8/4

収穫前管理で所得の向上

JA果樹部会リンゴ専門部



収穫前管理を確認する生産者

リンゴ定例指導会を11会場で開催しました。果実の着色と肥大を促進するため、品種ごとに葉摘みや玉回しの方法、見直し摘果について確認。JA園芸課の村上廣美職員は「収穫前管理をしつかり行い、平均単価が高い上位等級の果実に仕上げ、所得向上につなげてほしい」と話しました。



8/11

役職員、行政一体で応援



牛肉を確認するJA人事教育課の高橋泉職員

新型コロナウイルスの感染拡大で低迷する牛肉の消費拡大と、農家の生産意欲向上を図ろうと「食べて応援いわて南牛消費拡大運動」を行いました。関係機関にも協力を呼び掛け、JA役職員と一関農林振興センター、一関市、平泉町から142パックの注文があり、消費拡大につながりました。

8/5

肉質高く評価され 名誉賞

第12回いわて南牛枝肉共励会の褒賞授与式を行い、入賞者7人を表彰しました。出品された36頭のうち最高賞の名誉賞には三浦博正さん（藤沢）が輝きました。三浦さんの去勢牛は肉質が全般的に高く評価され、枝肉重量492キ、枝肉単価2807円、販売金額138万1044円で取り引きされました。三浦さんは「名誉賞を受賞できてうれしい。飼養期間中に病気をさせないよう注意しながら、これからの良い枝肉を作っていきたい」と初の最高賞受賞を喜びました。

いわて南牛振興協会



日頃の飼養管理をたたえる入賞者と関係者

8/11

感謝込め愛情価格で提供



商品を買い求める来店者

野菜夕市をJA旧中里支店で開きました。部員の減少に伴い農家組合に協力を要請し、7月から商品の陳列などを一緒に行っていきます。価格はほとんどが100円で、小野寺光子支部長は「価格を変えず新鮮なものを安く提供したい」と話しました。野菜夕市は12月まで月1回開催されます。

8/5

発想を転換し販売促進を



キャンペーンを紹介するJA園芸課の舞草美津恵職員(左)とJA営農振興課の大貫裕子職員

「産地応援！JAいわて平泉米キャンペーン」を、9月10日まで関西の大阪いずみ市民生活協同組合とイズミヤで開催しています。令和1年産「ひとめぼれ」（5キ）の袋についている応募シールをはがきに貼り応募すると、抽選で各店30人に「いわて南牛」の精肉が当たります。

8/10

適期防除で品質低下防ぐ



無人ヘリコプターで水田に薬剤散布

無人ヘリコプターでのカメムシ防除を8月上旬から各地で行いました。カメムシのすくい取り調査では前年よりカメムシの数が多く確認されました。一関地方良質米生産技術情報やFMラジオなどで地域内一斉防除の効果的な方法を紹介しながら、適期防除を呼び掛けました。

8/12

収穫開始の判断は慎重に



選果基準を確認する生産者

紅ロマン目揃え会を開き、収穫適期や収穫作業の留意点などを確認しました。JA管内の収穫ピークは8月16日頃。着色が進みややすい品種のため、必ず食味を確かめ香りや果汁が十分に出るから適期収穫するよう注意を促しました。販売数量2万4000箱（10キ）を予定しています。

JAミニトマト部会



生育状態を見ながら今後の管理を確認

若手生産者4人の圃場を相互巡回しました。互いの圃場の色付き具合や病害虫発生状況などを見ながら今後の管理の注意点を確認しました。昼と夜の気温差を大きくせず、水管理で土壌水分を一定に保って裂果を防ぐことや、収穫終了予定から逆算した摘心時期と最終の追肥時期などの情報を共有しました。及川華代さん（藤沢）は「日差しの強い日は遮光にも注意している。温度管理と水管理を徹底して11月まで安定出荷できるようにしていきたい」と意欲を見せました。

8/21

裂果対策と病害虫防除を

JA女性部花泉中央支部



8/13

人気のお供え用の花を包む女性部員



ふれあい野菜市お盆期間特別営業を8月10日から4日間、花泉の直売所で行いました。店内には部員が栽培した旬の朝どり野菜や加工品の他、色鮮やかなお供え用の花が並びました。お盆を地元の旬で迎えたいと多くの買い物客が訪れ、目当ての商品を買い求めていました。

お盆のお供えは地元産で

一関市



8/19

受け取った野菜を確認する祭時温泉かみくらおかみの佐藤奈保美さん



市内の飲食店で開催した「第23回全国地ビールフェスティバルin一関」に合わせ、JAの協力で一関産農産物PR事業を行いました。賛同する飲食店15店舗にナスやピーマン、トマト、キュウリ、菌床シイタケを無償で提供。地ビールに合うおいしい料理でPRしました。

地元農産物を料理でPR

千厩高校



8/20

摘葉作業の説明を受ける生徒



生産技術科生産科学コースの2年生20人は8月20、21の両日、管内5カ所の園芸農家で農家実習を行いました。キュウリ農家では生徒5人が摘葉や収穫作業を体験しました。千葉真人さんは「収穫までのさまざまな作業工程を学ぶことができ」と話しました。

農家実習で収穫など体験

JA果樹部会りんご専門部

8/26

色付き具合や規格を確認する生産者



りんご早生種収穫指導会をJA西部、南部、東部園芸センターで開きました。収穫時期や選果規格などを確認し、早生種の目揃えを行いました。小岩克宏専門部長は「例年になく気温の高い日が続き、着色管理に苦労するが、しっかりと管理し出荷していきたい」と意欲を見せました。

硬さを確認し適期収穫を